

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 15 号 (8 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

東海戦は痛み分け

8 月 22 日(土)、山形市スポーツセンターにて Y リーグ 1 部第 11 節が行われ、山東は東海との対戦となりました。東海には前回のリーグでの対戦において、失点から同点に追いつくも終了間際に突き放される悔しい敗北を喫しているだけに、意気込んで試合に臨みました。また今回の対戦はお互いに夏場のトレーニングの成果を試す試合でもあり、内容と結果の両方を求めたい勝負となりました。

試合開始直後、山東に責任感の感じられない、集中力の欠いた「軽いプレー」が立て続けに見られ、訳が分からないうちにボールは山東ゴール前に。そしてゴール前でグダグダやっているうちにこぼれ球を蹴りこまれ失点。試合の入りは重要と言いますし、それを常々言い聞かせているつもりではありますが、まさにボールが足に付かないうちに先制を許す。実際まだボールを足に触れていない選手が半分くらいいるうちの、前半 1 分の失点。ヘディングのかぶり(ヘディングできず後ろにボールをそのままやってしまうこと)、連携ミスから来るもたつき(声の掛け合いという当たり前のことを当たり前にできる選手たちであれば防げたはず)、クリアボールの方向の誤り(敵の人数の多い、敵から攻撃を受けた方向にボールを返してしまいました拾われた)などが立て続けに発生する幼稚な失点。最近、内容は別にして結果がなぜか付いてきたことから、「チームに緩みが発生するのは」と心配し注意喚起をしておいたのですが・・・。
甘い、甘すぎる失点。

その後、一進一退の時間が続く。東海は山東の左サイドを封じるためか、FWが(山東の)左サイドに寄るため、山東の左サイドバックが敵FWとマッチアップし、左サイドハーフが敵の右サイドハーフとマッチアップすることになってしまい、左サイドからなかなか攻撃できない(具体的に言うと左サイドハーフの嶋貫が守備に追われて攻撃できないということ)。しかし中盤でボール支配率を徐々に高めた山東がペースを握り始めと、立て続けにコーナーキックを獲得。そんな中、飛び出した敵GKがボールを触ることができずボールを流すと、そのすぐ後ろ(ボールの軌道から言って後ろ)で孝祐がそれを詰め、同点。ベンチからは遠くてヘディングなのか足なのか良く見えませんでした。執念のゴールといったところか。

前半の後半はやや山東ペース。特に右サイドからの攻撃が冴え、藤盛が右サイドの攻撃からGKと1対1になったり、右サイドハーフ賢祐がディフェンスラインを抜け出しゴール前まで迫ったり、見せ場を作る。しかし!ディフェンスラインで丁寧にビルドアップ(低い位置から確実に攻撃を形成すること)しようとしたまでは良かった。

たが、プレッシャーを受けつつあった右サイドバックにセンターバックより出されたボールが、そのまま敵に渡ってしまい、程なくして失点。1点目に続き、呆然とさせられる失点の仕方。単純に言えばパスミスですが、プレッシャーを受けている、それもDFにパスをしたという判断のミス。ただ、そのミスそのものは個人のもですが、そのプレーの前にはGKが同じようにプレッシャーを受けているDFに平然とパスをしてやや危ないシーンを招いていたことから、チームとして危機管理がうまく行っていなかったということ。前半は1-2で折り返す。

ハーフタイムでは選手の口から何の声も出ない、異常な雰囲気。7分ほどの沈黙の後、ようやく松永が声を出す。選手たちの若干の会話の後、顧問は怒りで冷静さを失いそうになりながらも、あくまで平静をよそおい、言葉をかけ選手を送り出しました（静かな口調でしたが話された内容はもちろん厳しいものです）。

後半はお互いに中盤の間延びが見られ、ミドル^{サード}3rd¹での攻防の時間が短くなる。主に、で言うところの遅攻の東海、速攻の山東。東海はスローインからのプレーにアイデアが見られる。山東はマーキングの意識はあるが、ボールに対して複数の人間でアプローチするところまでまだ至っておらず、ボールを奪えないまま運ばれるシーンが目立つ。しかしそんな中、カウンターにおいて右サイドにプルアウェイ（ボールから離れながら弧を描いて動く動き）した松永が2度の切り替えしで敵を抜き去り、センターリング、ボールはファーからゴール前に侵入した市村に渡し、市村のドンピシャボールがネットを揺らす。再度の同点劇。その後は互いに空中戦からチャンスを作るも、決めきれず、ドロー。

暫定1位の日大がキッチリ新東に勝利したことから考えると、暫定2位のチームと3位のチームの引き分けは痛み分けといったところか。2度の劣勢を跳ね返したという点では頼もしいと言えますが、この試合の内容は、本当に本当に頂けません。ありきたりの表現を使えば敵に負けるというより自分に負けた試合運び。反省して、次節9月5日鶴工戦（12:00キックオフ、鶴岡東サッカー場）に臨みたいと思います。

実り多い日々 合宿・遠征

ようやくというか、早くもというか、山東では8月20日をもって夏休みが終わりました。今年の夏は、Yリーグがあった関係から、昨年まで毎年参加させてもらっていた仙台のPUMA CUPに参加できず、代わりに月山志津温泉の宿で合宿しながら弓張平公園で練習を行いました（8月4日~6日）。やや芝の禿げた箇所がありましたが、まあまあ状態の芝で、じっくりボールを使ったトレーニングを行いました。顧問今野は新人チームに代わってから、キャプテンの行う練習を監督することはあっても、まともに練習を（みずから）指揮していなかったもので、Yリーグなどを見てい

¹ ピッチを3分割して自ゴールに近い1/3をディフェンシブ3rd、真ん中をミドル3rd、相手ゴールに近い1/3をアタッキング3rdと呼びます。

て不足している部分のトレーニングを行う良い機会だと思い、張り切って練習を指揮しました。私がこれまで口にしてきた言葉 具体的には(ボールとマークする相手との)同一視 を選手は実は理解していなかったなどのことがわかり、合宿して本当に良かったと思われました(言葉ではわかっているにもかかわらず同一視するためのポジショニングを理解していないため、言葉の意味を理解していないのと同じ)。

8月8日のOB戦ではOBに負けじとはつらつプレーをした後(正確にはOBが現役生に負けじとはつらつプレーでしょうが)、昨年度同様モツ鍋を完食。今後の成長を予感させました。

そして8月10日~12日には山東サッカー部恒例の蔵王合宿。25年以上前にサッカー部の校内合宿にて熱射病で一人亡くなるという不幸があり、それ以降、涼しい蔵王での合宿をし続けて20数年²。もちろん宿は恒例の川原屋さん。あいにく雨にたたられましたが、今年に限っては、ボールを使ったトレーニングは月山の芝で行い、蔵王はフィジカルトレーニング中心の合宿をしようと思っていたので、まったく問題なし。涼しい、涼しすぎる環境の下、雨に濡れながら、選手たちは坂道ダッシュに精を出していました。

お盆をはさんで、花巻で行われたサッカーフェスティバルに初めて参加させてもらいました。愛知県や富山県からも参加チームがあり、大学のチームも参加している大会。いろいろな高校さんとやらせてもらったのですが、(野球だけでなくサッカーも強い)花巻東さんの絶妙なラインコントロール、複数の選手がイメージを共有する攻撃が、一番印象的でした。また富士大学Cとの対戦では、普段「スタメン」ではない選手中心で臨んだのですが、これまでおとなし過ぎて物足りないと思っていた選手たちが、大学生相手に俄然気合の入った戦いを繰り広げ、声を掛け合い集中してプレー。勝ち負けは別として感激させられました。強いチームはBチームも強い。これは間違いのない事実です。この試合を経験した選手が以降がんばり、Aを脅かすようになることを強く望みます(それが結果的にAをもBをも強くするのです)。

最後になりますが、夏の合宿・遠征に際し保護者会の皆様から激励金を、OB会の皆様からは蔵王合宿に際して差し入れを頂戴いたしました。ありがとうございました。

² その折に、亡くなられた方のご家族から、部旗とテントの寄贈がありました。それらは今も、ありがたく利用させてもらっています。